

□ 遠近法の種類 (代表的なもの)

■ 空気遠近法、消失遠近法

自分から離れた場所や物体を表現する際、輪郭や濃淡をぼやかして描いたりする事で奥行きや遠近を表現する手法。連なる山々等、自然物といった有機的、かつ巨大な対象に対する遠近表現に効果的。
消失遠近法は、カメラのピントを手前に合わせた様なニュアンスで表現します。



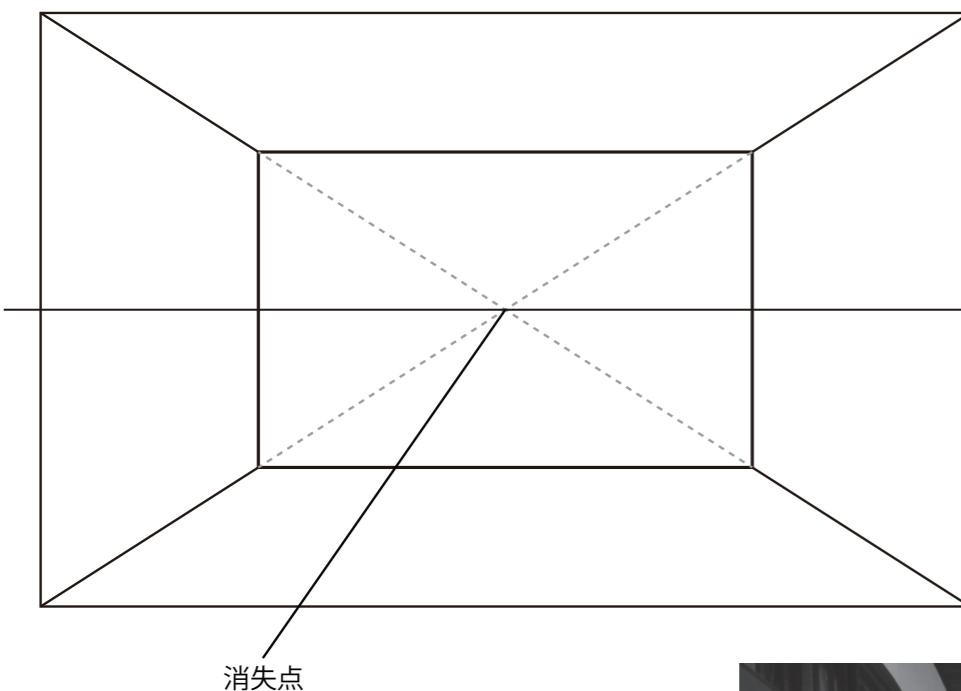
■ 重疊(ちょうじょう)遠近法

複数の対象物を表現する際、対象物を重ね、前後関係をつくる事で奥行きや遠近を表現する手法。

■ 線遠近法(透視図法、パース、パースペクティブ)

奥行きや遠近を表現する上で、線を基調とした表現方法。人工物等、幾何学的な物体に対する遠近表現に効果的。

○ 1点透視図法



空間的な奥行きや遠近を表現する際、自身に対して真正面(図A参照)である線(辺や面)は全て上下左右に対し平行に描かれ、奥に向かう線のみ1つの消失点へ向かい、変化(歪み)が生じます。

消失点 = 透視図法において、線が交わり点状になっている箇所



○ 2点透視図法

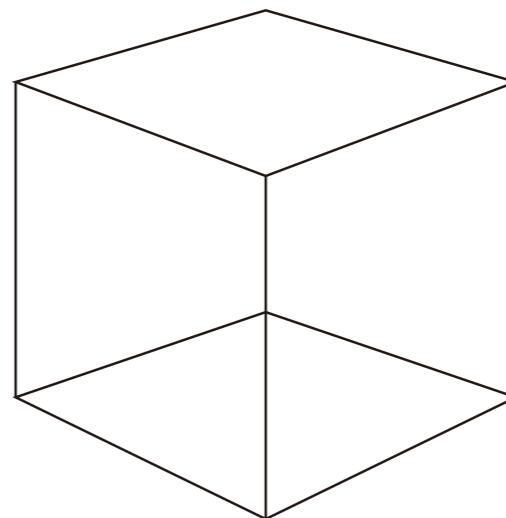
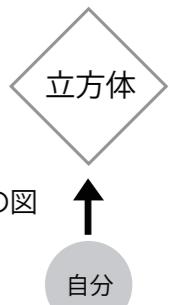
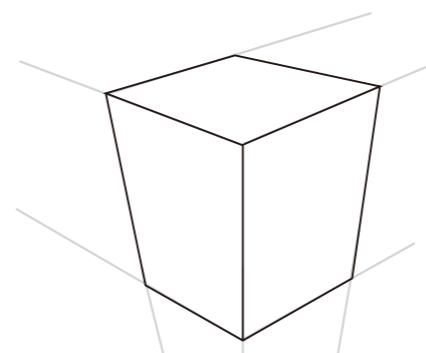
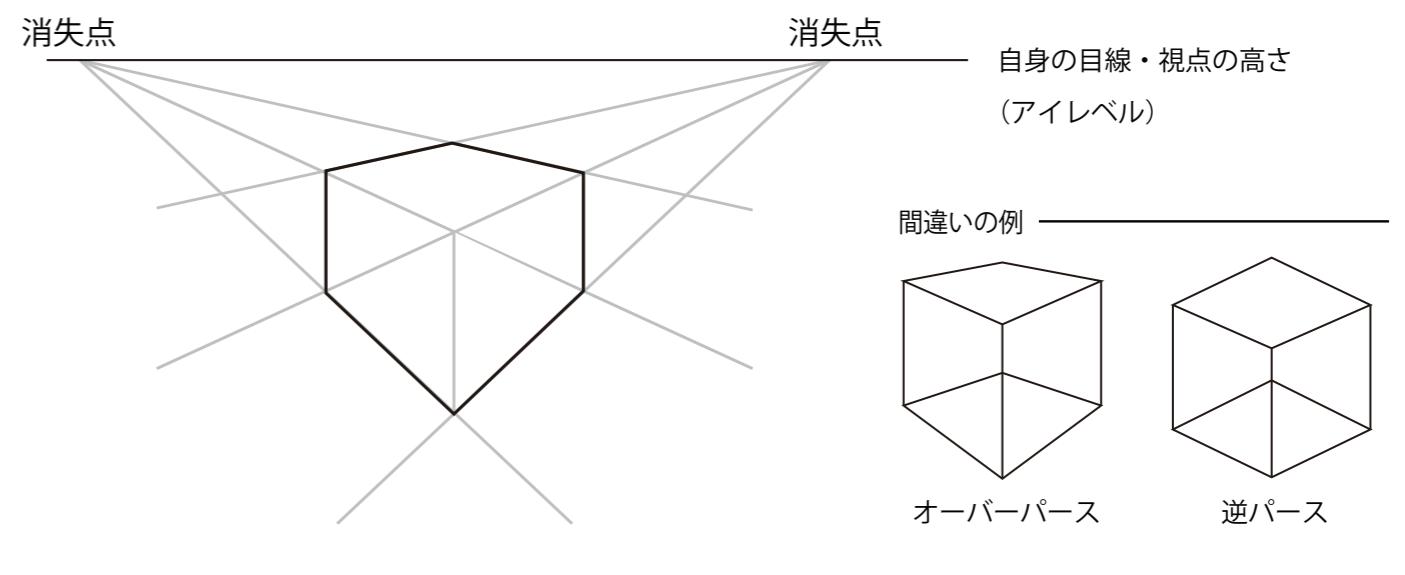


図 B



2点透視図法は、1点透視図法から視点を左右にずらした(対象を斜め横から見た)際に用いる表現手法です。上下に伸びる線は平行に描く上で、左右に存在する消失点に向かう線には変化(歪み)が生じます。
卓上のものから巨大な建築物まで様々な対象に用いる事ができます。



その他、ビル等の巨大なものや、モチーフを極端に間近に見る場合には左図の様な3点透視図法(大きな対象物を斜め上、あるいは斜め下から見た場合)を用いる場合もあります。
※机上デッサンや静物デッサンなど、室内におけるデッサンには通常用いません。

- 画面下の切れ端は地面(地平線)としてとらえて下さい。地面(机上)から垂直に立っているものは、基本的に画面下から垂直になる様に(3点透視は除く)意識し描写して下さい。
- 立体を描く際、特にパースを用いて遠近を表現する場合には、目に見える箇所はもちろん、後ろ側等の見えない箇所についても意識し、確認する様にして下さい。